chojiai.jp

リョウへ。

こうしてあなたに語りかける日が来るなんて、まだ心が追いついていません。告別式の朝、ポケットの中で携帯が静かで、いつもの「今日もいこうぜ」が届かないことが、こんなにも寒いのかと知りました。

思い返せば、大学の軽音サークルの狭いスタジオで、最初にあなたが弾いたアルペジオの一音で、場の空気がふっとゆるむのを感じました。明るくて、誰に対してもフラットで、初対面の一年生にも、顧問の先生にも、同じ目線で笑って話しかける人でしたね。失敗談を真っ先に自分からネタにして、みんなを笑わせながら、誰も傷つけない。あなたのユーモアは、いつも人の肩の力を抜いてくれました。

卒業後も、夜の街角でギターケースを開いて、二人で歌い続けました。忘れられないのは、あの土砂降りの夜です。客は一人もいなくて、傘の花もすぐ閉じてしまうような雨の中、あなたが「やるか」とだけ言って、『栄光の架橋』を最後まで全力で歌い切ったこと。最後にびしょ濡れの手でハイタッチしたあの音と、雨の匂いと、あなたの笑顔を、私はこれからも何度でも思い出すでしょう。あれは、私たちの小さな舞台で起きた、確かな奇跡でした。

横浜で育ち、会社員の時間を経て、朝は豆を焙煎し、夜はギターで人を笑顔にする。ラテアートの大会で表彰されても、あなたはいつも肩の力の抜けた笑顔で「たまたまだよ」と言った。でも本当は、見えないところで黙々と練習していましたね。ミルクの温度計の目盛りに鉛筆で小さく印をつけ、指先の感覚を確かめる横顔。子ども食堂で、はにかむ子の前にしゃがんで、ゆっくりコードを鳴らしてみせる手。あなたの「好きなことを、好きだと言える強さ」は、いつも静かで、まっすぐでした。

古着屋のラックをめくる音、旅先で見つけた喫茶店のガラス戸をあけるときの「当たりだな」の小さな声、ランニング帰りの汗の匂い、そして、ギターのやさしいアルペジオ。私たちは、どれも等しく恋しくなります。朝いちばんの短いメッセージが届かない代わりに、あなたの残した音と手ざわりが、これからの日々の合間合間に現れて、私たちの背中を

押してくれるはずです。

chojiai.jp であなただけの弔辞を作成

ご両親の正人さん、恵子さん、妹の麻衣さん、そして婚約者の由衣さん。リョウは、いつも皆さまの話を誇らしげにしていました。うまくいかない日でも、「家族がいてくれるから大丈夫だ」と笑っていました。どれほど深いご心痛か、私には想像しきれませんが、あの人が大切にした温かさと気遣いを、私たち友人も受け継いで、そばに寄り添っていきます。どうか、お身体をいちばんにお労わりください。

もう一つ、伝えたいことがあります。開店準備を進めていた店、『Morning Blue』。あなたが描いたロゴ案を、私は今も大切に保管しています。朝いちばんの澄んだ空の色と、湯気のやわらかさが同居する、あの青。いつか、皆さんにも見ていただきたい。コーヒーの香りと弦の響きが交わる、あなたの夢は、形を変えても、きっとどこかで息をしています。

リョウ、あなたと出会って、音楽は私にとって競争ではなく、誰かの一日を少しだけ明るくするための灯りになりました。あなたが教えてくれた「好きだと言える強さ」を、これからも歌に込め、日々の挨拶に込め、仕事の手つきに込めて、生きていきます。

だから、ここで約束します。雨の夜でも、客が一人もいなくても、私たちは歌い続けます。あなたが笑ってくれるように。あなたが「今日もいこうぜ」と送ってくれたように。

リョウ、たくさんの音と香りと笑顔を、ありがとうございました。どうか安らかに。

また会おう。そのときは、いつもの調子で、最初のコードを鳴らしてください。私は、あなたの隣で歌います。

この弔辞は chojiai.jp
で作成されました。いくつかの質問に答えて、今すぐあなただけの弔辞を作成しましょうchojiai.jp

chojiai.jp であなただけの弔辞を作成